

4

認知症の理解

- (1) 認知症を取り巻く状況
- (2) 認知症の基本的な知識
- (3) 認知症の症状
- (4) 認知症の人や家族への関わり方

社会福祉法人 緑樹会
介護老人福祉施設 ラペニ子玉川

中川 雅崇

田中 李果

高齢者の特徴について



**高齢者とは65歳以上の方々のことを指しますが、
心身的にはどんな変化があると思いますか？**



老化に伴う心身機能の変化



老化に伴う心身の機能低下



生理的老化

白髪やしみ、しわ、老眼、難聴などの人体の老化に伴って認められる心身の機能低下のこと。急激に異常な症状を発現することは少ないです。

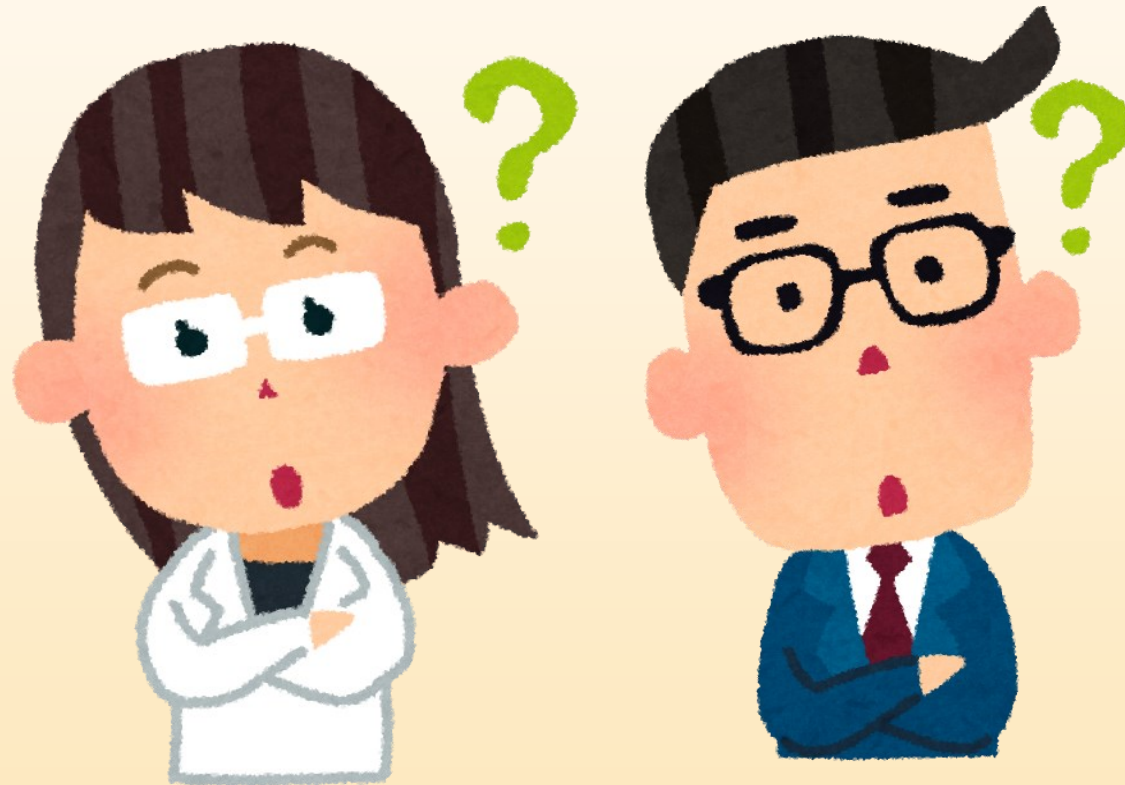
病的老化

長い生活習慣の中で動脈硬化や高血圧などの病因等が主因となって心身の障害が著しくなく、日常生活機能が低下し、老化現象が促進され病的状態になることです。明らかに急激で異常な症状を発現します。



総水分量の低下

人体の萎縮



適応機能の低下

防衛反応の低下

代謝機能の低下

総水分量の低下：成人は約60%が水分ですが、高齢者では成人の約8割に減少します。よって、水分補給などに障害を伴うと脱水を招きやすくなります。

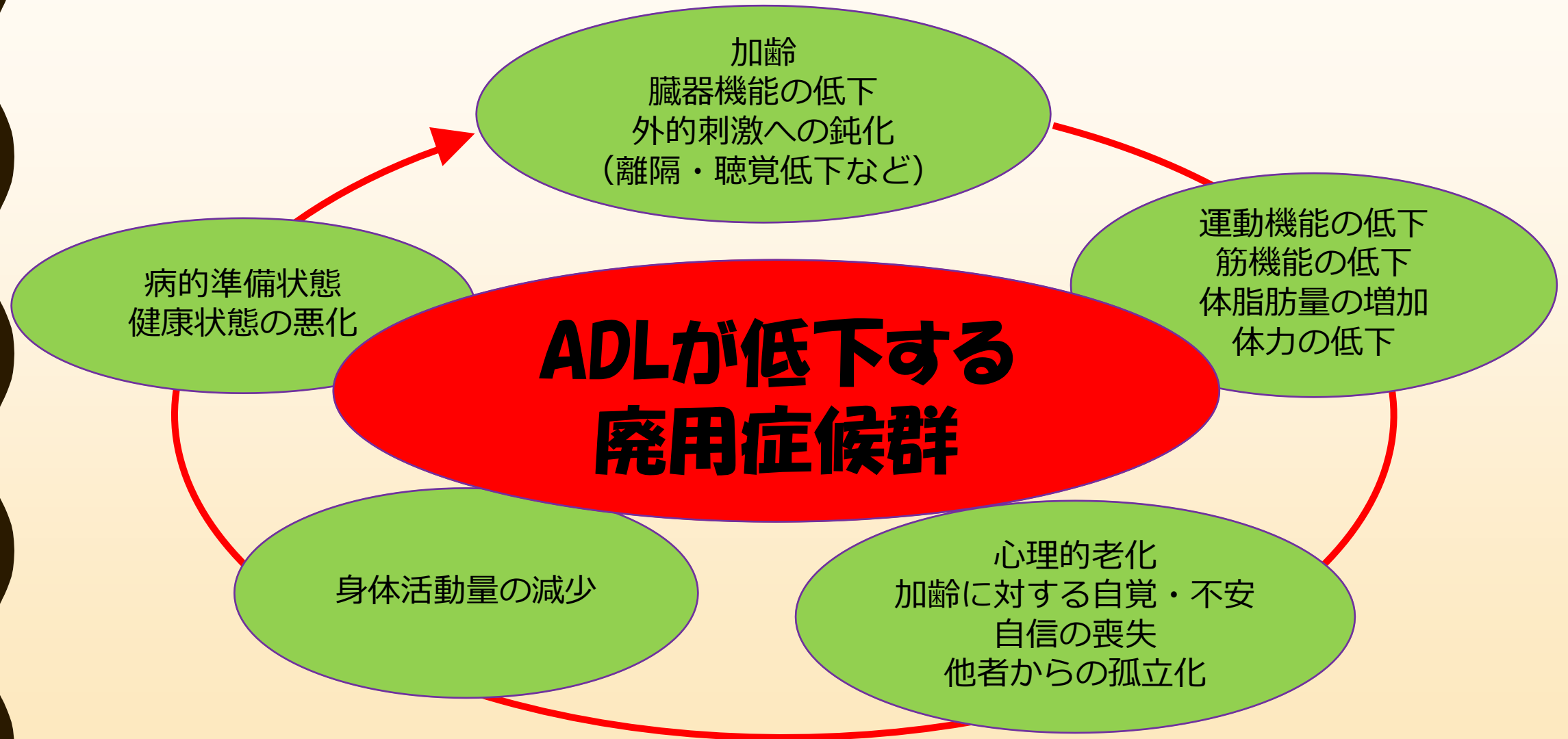
人体の萎縮：心臓を除く全ての臓器や器官が萎縮して機能低下を伴います。特に肝臓、腎臓、運動器などで機能低下が著明になります。

適応機能の低下：生活環境の変化に対応して身体の内部環境を変化させ順応する適応機能が低下する。身体面だけでなく精神面でも適応機能が低下し、身体の内部環境の不適合や、日常生活機能の低下を引き起こしやすくなります。

防衛反応の低下：免疫機能の低下によって、抵抗力が弱くなり、感染症などにかかりやすくなる。復元力も低下するため病気などの回復が困難になります。

代謝機能の低下：代謝量の低下により摂取した栄養分が蓄積し、肥満や糖尿病などの生活習慣病を招きやすくなります。

このような変化が起きるとどうゆう事になるのだろうか？



高齢者の社会的機能の変化

高齢者の社会的・精神機能の変化

社会的特徴

- 長い人生経験による個性が影響
- 老いた自分を受け入れられない
- 経験主義的・発展性に乏しく形式的
- 喪失感・孤独感・不安感
- 悲観的・寂しがり・愚痴っぽくなる
- 職業上の責任や義務からの解放

精神機能特徴

- 社会の第一線から離れる(役割の喪失)
- 経済力の低下
- 人間関係や役割などの社会的交流の減少
- 社会との交流の機会等失いやすい
- 扶養される立場へ(家長の交代)
- 高齢者の二人暮らし、独居

これらの特徴が原因で感情障害を引き起こしやすくなり、精神的なものから身体的な症状に移行する、もしくはその逆の場合もあります。

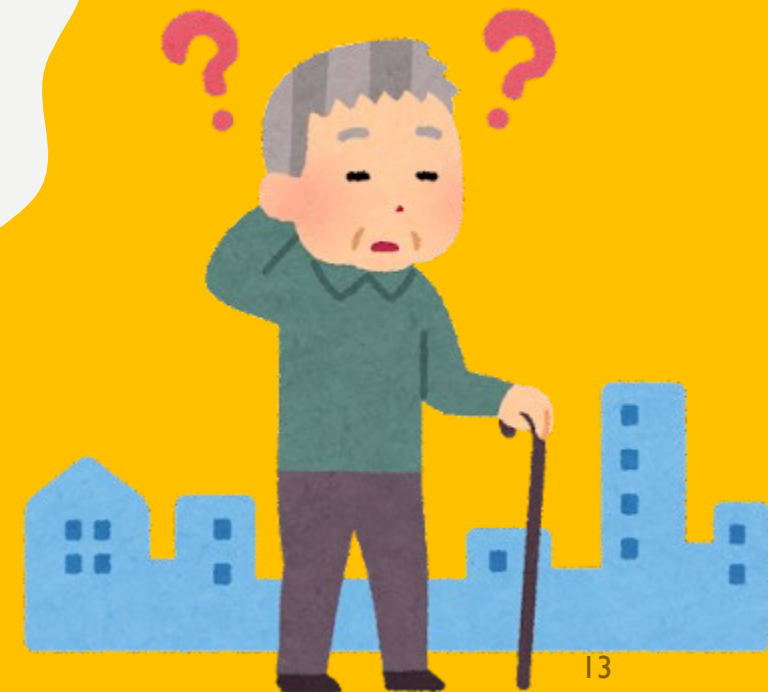
高齢者は加齢だけではなく疾患や身体機能の低下、社会・生活環境の変化が多く影響し合っているのが特徴です。

この研修で高齢者ってこんな感じなんだなあって少しでも理解してくれたら嬉しいです。

高齢者が抱える問題は沢山ありますが、ここにいる皆さんが優しい気持ちで高齢者の方々に接していただけるよう一緒に頑張っていきましょう！

ご清聴ありがとうございました！

認知症について



認知症って何だろう？



認知症とは、知的機能全般が脳や身体に問題が生じることによって、知的機能全般が持続的に低下し、継続的に日常生活、または、社会生活に相当な制限を受けられる状態のことを言います。老化による物忘れとは違います。

認知症の種類は？

若年性認知症

アルツハイマー型認知症

血管性認知症

前頭側頭葉変性症

レビー小体型認知症

認知症の症状とは？

中核症状

精神症状に伴って必ず生じる

周辺症状

出現頻度に差異がある

図にしてみるとこんな感じ！ 次のページへ！

脳内の障害

ADL障害

歩行障害
摂食障害
排尿・排便障害
脱着衣の障害

中核症状

記憶障害
見当識障害
計算障害

随伴する精神症状

幻想・妄想
夜間せん妄(意識障害)
うつ状態・睡眠障害など

身体疾患

脳血管障害
糖尿病
心臓疾患
高血圧・低血圧など

視力低下

職場状況

職・収入の喪失など

行動障害

徘徊・暴力
多言・興奮・不潔行為・異食・幻想・妄想など

現実世界とのズレ

BPSD

認知症の人達にどう向き合えばいいのだろう？



尊厳の保持

認知症の方の意思をいかにくみ取り、尊厳を保持できるか

パーソンセンタードケア

認知症の人を患者としてみるのではなく、**ひとりの人間**として、**その人らしさ**、その人独自の存在を認め、受け入れ、尊重してケアを行っていかうという考え方



ユマニチュード

【ユマニチュード 4つの柱】

見る



水平に見る
正面から見る
近くから見る

話す



優しく穏やかに
話しかける

ケアの内容を
実況する

触れる



感度が
低い部位から
触れる

広い面積で
触れる

ゆっくり
優しく触れる

立つ

1日 20分
立つ時間をつくる



バリテーション

認知症の方が**感じている世界を否定せずに寄り添い、共感することを原則**としています。

バリテーションでは認知症の方の言葉や行動の裏には理由があると考え、会話をすることでその**理由を探っていきます**。例えば、家にいるときに「家に帰りたい」と発言する場合、「両親に会いたい」「生まれ育った家に帰りたい」「家事をしたい」などの思いが隠れているかもしれません。丁寧にコミュニケーションを取ることで感情や記憶を表に出せるように促し、言葉や行動の奥にある本当の想いに歩み寄って共感することが大切です。

まとめ

様々な症状は認知症の方からの「メッセージ」
問題行動ではなく、私たちへの「メッセージ」

一人の「人」として理解するという視点を持つことが大事です。

認知症の人 **ではなく** 認知症の**人**